

## 編集後記

タンパク 3000 プロジェクトも半ばを過ぎて、成果が続々と報告されています。中間報告では、数的な目標を軽くクリアして、プロジェクト終了時には一体いくつの構造解析が報告されるのが楽しみです。スピードがボトルネックだった時代はもはや過ぎ、膨大な結晶化プレートの観察やデータの管理などに頭を悩ませることもしばしばです。一方で、GPCR や、哺乳類由来のタンパク質などの構造解析は、まだまだハードルが高く、技術革新の余地が残されています。今年から様々な問題を抱えつつ国公立の大学や研究所が独立行政法人化され、新たな取り組みやベンチャーのスピアウトなどが加速されることも期待されます。さて10年後と言わず、5年後は何に頭を悩ませているのでしょうか？

今回は創晶プロジェクトについて大阪大学の安達博士に、プログラム Lafire について姚博士に御執筆いただきました。一層のご愛読の程、よろしくお願い致します。

(T.M.)

### 編集委員会

委員長	櫻井 正博	(エーザイ)	ml-sakurai@eisai.co.jp
委員	幾多 まり	(万有製薬)	ikutamr@banyu.co.jp
委員	松本 拓男	(三共製薬)	mtakuo@shina.sankyo.co.jp